

古文書を読む会学習記録

作成日 平成28年 5月27日

開催日	平成28年 5月26日	時 間	10:00～12:00
場 所	新棟リハーサル室	出席人数	13名
講 師	真田 雅行氏	作成者	鈴木 浩士
テーマ	第二学習 奥の細道⑤		
概 要	<p>今回は、石巻→平泉→尿前の関→大山越え→尾花沢→山寺（途中まで）を学習。</p> <p><石巻>5月10日 平泉を目指したが、途中で石巻と言う湊に出た。思いがけずにぎやかであったが、宿をさがすのに難儀した。</p> <p><平泉> 名所・旧跡の多い場所ではあるが、今は寂れた農村になってしまった。しかし、高館に登り、眼下の衣川、和泉が城を望んで、「国破れて山河在り・・・」を思い、涙を落してしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 夏草や兵共が夢のあと ○ 卯の花に兼房みゆる白髪かな 曾良 <p>藤原三代の栄耀を残す堂宇を見学。その荒廃ぶりに驚く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 五月雨を降り残してや光堂 <p><尿前（しとまえ）の関> 次の目的地の尾花沢を目指す。岩出の里に泊まり、小黒先、みずの小島、なるこの湯を経て尿前の関に至る。関守に怪しまれてやっと関を越えた。日暮れてやっと番人の家に泊めてもらったが、3日も降り込められてしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 蚤虱（のみしらみ）馬の尿（ばり）する枕もと <p><大山越え> 宿の主から出羽の国へは案内人が必要と言われ屈強な若者を雇った。主の言う通り、高山森閑として鳥の声も聞こえず木の下闇（このしたやみ）を難渋してようやく最上の庄に出た。案内人が言うには、この道は必ず事故・災難があり、無事に来られたのは幸運であった。</p> <p style="padding-left: 2em;">（*）ここは山刀伐（なたぎり）峠。盗賊が夫婦者をなたで斬ったと言う伝説が残っている。</p> <p><尾花沢（おばねざわ）>5月17日 この地で“清風”と言う者を尋ねた。この人はお金持ちであるにもかかわらず志は高尚で、都に時々出ていることもあり旅の憂さやつらさも知っているので、至れり尽くせりにもてなしていただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 涼しさを我宿にしてねまる也 ○ 這出よかいやが下のひきの声 ○ まゆはきを俵（おもかげ）にして紅粉（べに）の花 ○ 蚕飼（こがい）する人は古代のすがたかな 曾良 <p style="padding-left: 2em;">（*）古くは“尾羽根（おばね）沢。 （*）本名は鈴木八右衛門。大地主の紅花問屋で大富豪。</p> <p><山寺> ・・・途中なので次回に譲る。</p>		
次回予定	平成28年 6月 9日 10:00～12:00 於：活動センターAB室 第一学習 赤井村石井家文書⑥		